神戸又新日報

夜の演藝

七・三〇 （AK）漫談「暖つたかい冬」西村樂天

八・〇〇 男聲合唱、メンネルコール・セレステイナ、指揮ヨセフ・ラスカ「夜の歌」ほか

八・二五 箏曲と長唄（一）箏曲「喜悅の波と花と」宮城道雄ほか（二）長唄「曙」吉住小三郎（大阪朝日會館「東京音楽學校邦樂演奏會」中繼）

九・〇〇 （AK）時事解説、外務省情報部第三課長佐藤忠雄

九・三〇 （AK）時報、ニュース、明日の歴史、氣象通報

第一万七千五百廿五號

男◇聲◇合◇唱

夜八時

メンネルコール・ヤレステイナー

指揮 ヨセフ・ラスカ

【夜の歌】 ネーゲリ作曲

降りて來れ 聖き夜よ
降りて來れ 崇高なる沈默よ
優しく人の世の傷みをおはひて
汝の帳の陰に入れよ
靜かに眠れよ 總ての心
哀しき生を營むものゝ憂するもの
すべてを再び與へよ
耐へしのびし者の墓に、汝の聖き
光を柔かにそゝげ（以下略）

【水車屋の別れ】 ドイツ民謠シュミット編

かの高き荒地の上に建つ一棟に、
朝日は金色に映ゆ、朝まだき門邊
に、みめ麗しき乙女三人、立ちて
こなたを眺む、一人の名はエリザ
ベス、次ぎの名はベルンハルダ、
三人目は、げに名指し得ぬ我が愛
ことに彼の女に深ければ（以下略）

【愛らしの小鳥よ】 ケーラ作曲

汝愛らしき小鳥は、たゞ歌ひに歌
ふ 小さき胸の能ふ限り
春の樂しきを歌ふ、春の愛を望み
を歌ふ 汝愛らしき小鳥は、たゞ
歌ひに歌ふ
幾十年も永く、日に夜をついで
汝が歌ふとも、何歌ひ足ることな
からむ
斯くも美はしく 神は世界を造り
給へり

【荒地の小ばら】 ヴエルネル作曲

童は見たり 野中のばら、清らに
咲けるその色愛でつゝ、あかず眺む
紅にほふ野中のばら（以下略）

【ローレライの歌】 ジルヘル作曲

なじかは知らねど心わびて
昔の傳說はいとゞ身にしむ
さびしく暮れ行くラインの流れ
入日に山々赤く映ゆる（以下略）

【三つの小薔薇】 ドイツ民謠ジルヘル編

私は泉にひたつたが 水は飲まぬ
其處で私は愛する人を探し求める
けれども見付からぬ（以下略）

――以上全部原語で歌ひます――